

本日は、ご多用なところ、御参列いただき、本当にありがとうございました。父は、日頃から、皆さんに支えられ、生かされてきた日々だった、縁あって出会った皆さんに感謝だなーとしばしば話していました。今日来てくださった皆さん全員が、父が言う、縁のある皆さんです。本当にありがとうございます。

父とは永遠のいのち、天国につながる希望について、よく話し合ってきました。私が学生時代にクリスチャンになって以来ですので40年近くになります。

17歳で小児喘息の突然の発作で神様に召された末っ子の京子は、10歳の時、テレビを見て、父に「教会に行きたい」と言ったそうです。父が元寺町の教会を教え、その教会に通い、イエス様を信じました。その教会は、父が研究してきた郷土の人物の一人、本田庸一らの教会で、私は父の研究の助手として一緒に礼拝に出たことがあります。

父と話し合った希望のメッセージは以下の通りです。

私たち全員のことを愛してやまない神は、全員に、その人でなければならぬ使命を与えている、でも私も含めて人はみな、自己中心の罪を持っている。愛の神様であるけれど、正義の神様であり、天国もあるが、地獄もある。神様は地獄に行くことを願わず、このキリストを信じるだけで、罪は赦され、神様との関係は回復し、神と共に、本来の使命に生き、天国への永遠のいのちが与えられる。

「お京は天国で待ってるよ」

父は黙って聞いていました。

今回、12月31日に父の体調が厳しくなり、私は枕元で父に言いました。「お父さん、イエス様信じて、新しい力もらって、桜ヶ丘に帰ろう！」父は「うんうん」と答えました。

父の親友の康安先生は、父は「正義の人。でも融通が利かないわけではない」とおっしゃってくださいました。不当、理不尽な扱い、権力者や強い者が虐げること怒る。人生で一度だけですが、小学

校6年生のとき、鼻血がどっと出るほどぶん殴られたことがあります。僕が母を理不尽にののしったのが理由です。自分は父に反発して部屋のふすまに段ボールを積み上げて開かないようにして、籠城しましたが、9時間して、母のうどんを食べ、父に詫言いました。自分が悪いとわかっていたので、それは良き思い出でした。父は頼もしくやさしい父でした。

父は今、天国で京子と一緒に喜んでるでしょう。永遠に喜んでるでしょう。それは聖書が約束した希望です。また皆さんに支えられて歩んだ父、そしてその父を人生の先達として育まれた私の希望です。

いつかまた、父と京子と天国で再会できる希望を胸に抱き、私たちも父のように人に尽くせるよう歩いていきます。

今回、皆さんが本日のお葬式にも参列くださり、本当に感謝しています。私たち家族は、まだまだ未熟で不十分です。皆さん、今後ともぜひ、ご指導のほど、どうぞよろしくお願ひします。本当にありがとうございました。